

平成 28 年度

工業標準化事業表彰

平成 28 年 10 月 6 日

経 濟 産 業 省

目 次

1. 工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰	(個人 1名) · · · · ·	1
2. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (個人)	(個人 20名) · · · · ·	2
3. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (組織)	(組織 1組織) · · · · ·	8
4. 國際標準化貢献者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 21名) · · · · ·	9
5. 國際標準化奨励者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 7名) · · · · ·	15
6. 工業標準化功労者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 5名、組織 1組織) · ·	17

平成28年度工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

野村 淳二（のむら じゅんじ）
パナソニック株式会社 顧問（69歳）

【略歴】

1971年 松下電工株式会社入社
1997年 同社 システム開発センター 所長
2002年 同社 取締役 新事業推進担当、新事業推進部長
2003年 同社 専務経営執行役、情報機器事業分社社長
2006年 同社 代表取締役 取締役副社長 全社技術・製造担当、人事担当、
新事業推進担当、オートモーティブ事業担当
2009年 パナソニック株式会社 常務取締役 特命担当
2010年 同社 代表取締役専務 技術担当、
エナジーソリューション事業推進本部担当
2011年 IEC(国際電気標準会議)の CB(評議員)委員
同社 顧問 エナジーソリューション事業推進担当
2013年 IEC 次期会長(President-Elect)
2014年 IEC 会長

【主な功績】

1. 野村氏は、IECにおいて、システム観点からの標準化を進めるシステムアプローチを重点取り組みと掲げ、推進担当のIEC副会長に考え方や活動の方向性について助言を与え、その活動を強く支持し推進した。その結果、2016年4月までにAAL(Active Assisted Living:積極的支援生活)、スマートエナジー、スマートシティーの3つのシステム標準化活動が開始された。
2. また、IEC会長として、アジア、中南米、ロシア、トルコを歴訪。各地で開催された国際会議や展示会でのIEC標準化活動への参画と標準規格の活用を奨励するプレゼンを実施。また、日本を含む各国の委員会や産業界のステークホルダーとラウンドテーブルを行うなど、IEC国際標準化活動の推進に大いに貢献した。さらに、アジア太平洋地域の重要な標準化会議である、PASC(太平洋地域標準会議)、ACCSQ(アセアン標準化・品質管理諮問評議会)に継続的に出席し、アジア太平洋地域における日本の標準化推進活動の国際的なプレゼンス向上に大いに貢献した。
3. 2014年には、15年ぶりに日本開催のIEC大会(IEC東京大会)をIEC会長として成功裏に主導。国内外から約2,600名の参加者を得る中、IECをはじめとする国際標準化の重要性、IECが重く置くシステムアプローチの推進を、各国の産業界関係者に強く訴求し、日本の官民一体での標準化戦略の実行に大きな影響を与えた。

【敬称略】

平成28年度工業標準化事業表彰経済産業大臣表彰受賞者

個人

NO	氏名	所属	主な功績
1	いしだ きよひと 石田 清仁	国立大学法人東北 大学大学院 工学 研究科 名誉教授	重要構造物を始め、日常生活の広範囲で使用され ている鉄鋼製品に係るJISの大半を管理してい る一般社団法人日本鉄鋼連盟標準化センターの鋼 材規格三者委員会において、6年間にわたり委員 長を務め、より現実に即した品質の高い200規 格以上のJISの策定に貢献、現在も委員長を続 投中。さらにそれらのJISは、関係するISO規格に も反映され、世界の鉄鋼に関する標準化活動に おける日本の活動に貢献。また業界関係者へ の知見の提供を惜しまず、技術者や研究者に対する 標準化教育に貢献。
2	いちかわ よしあき 市川 芳明	株式会社日立製作 所 知的財産権本 部 国際標準化推 進室 主管技師長	IEC/TC111（電気・電子機器、システム の環境規格）の国際議長を2009年より7年間、 ISO/TC268/SC1（スマート・コミュニティインフラストラクチャ）の国際議長を20 12年から4年間務め、2014年に環境分野では初め てIECとISOの共同WG（環境配慮設計）の設立を実現。IEC/TC111（電気・ 電子機器、システムの環境規格）の国際議長として、開発した環境規格の法規制への導入を欧米の 政府に働きかけ、欧州規格への規定的引用、米国 グリーン調達規則への引用に貢献。
3	いちかわ よしと 市川 義人	オリンパス株式会 社 医療品質本部 開発品質・環境推 進G 副部長	IEC/TC62（医用電気機器）の国内委員会 副委員長、JIS原案作成委員会副委員長及び本 TCの6つのWG/MTのエキスパートとして国 際標準化に関与。さらに、日本工業標準調査会標 準第一部会医療機器技術専門委員会臨時委員を5 年間務めるなど、工業標準化に対する貢献は顕著。 また、リスクマネジメントの医療機器への適用（I SO14971）、医用電気機器の基礎安全及び基 本性能に関する一般要求事項（IEC60601 -1）等の国内への普及活動を主導。

NO	氏名	所属	主な功績
4	いまい いさむ 今井 勇	一般社団法人日本ゴム工業会 ISO/TC45国内審議委員会 チェアマン	ISO/TC45（ゴム及びゴム製品）国内審議委員会委員長など、14年間にわたりゴム関連の、JIS100件以上、ISO40件以上の規格開発を主導。また、2011年からJISC化学・環境技術専門委員会臨時委員として、約250件のJISを審議。さらに、2012年からSC4（ゴム製品（ホース以外））／WG13（引布）コンビーナとして活躍。JISC支援によるアジア太平洋研修などのASEANを中心に積極的に国際標準普及活動に従事など、国内外での多面的な活動によるゴム産業における日本の存在感を高めた功績は非常に大。
5	おおたに よしお 大谷 吉生	国立大学法人金沢大学 理工研究域自然システム学系学長補佐（国際担当）	ISO/TC24（粒子特性評価及びふるい）／SC4（粒子特性評価）、同TC142（空気及びその他のガスの清浄装置）の国内委員長として意見調整に努めるとともに、国際会議では日本代表団長、コンビーナ等として参画し、国際規格策定、日本意見の反映に大きく貢献。また、JISの原案作成委員長として尽力するとともに、2008年から現在に至るまで日本工業標準調査会の専門／臨時委員を務めるなど、中核的かつ主導的な立場で国際標準／国内標準の推進に多大な功績。
6	おかの ひろし 岡野 宏	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 事業化支援本部 地域技術支援部 城東支所 ワイドキャリアスタッフ (研究員)	理学療法機器関連のJIS原案作成委員会委員長を11年間務め、「赤外線治療器の基礎安全及び基本性能に関する個別要求事項」など9件のJIS制定等に関与。また、IEC/SC62A（医用電気機器の共通事項）の国内委員会委員及び医用電子機器JIS原案作成委員会委員として中立的な立場から積極的に発言するなど、理学療法機器分野等の標準化活動を主導するとともにその成果を中小企業の技術支援に活用。
7	さかぐち しゅうじ 阪口 修司	国立研究開発法人産業技術総合研究所 中部センター 产学官連携推進室 総括主幹	ISO/TC206（ファインセラミックス）の国際幹事を10年以上務め、ファインセラミックスに関する国際標準の作成に積極的に取り組み、現在まで65件の規格制定を主導。ファインセラミックスは、日本が世界をリードし、多くの先端分野に関係している材料であり、技術波及効果が大きく、アプリケーション分野も広い材料。この分野において標準化活動を行うことにより、品質の明確な識別・信頼性向上・粗悪品排除などの成果が期待でき、日本製品の高付加価値化・国際競争力強化に寄与。日本の産業界への貢献は大。

NO	氏名	所属	主な功績
8	さとう しんいち 左藤 真市	地方独立行政法人 大阪府立産業技術 総合研究所 金属 表面処理科 主任 研究員	一般社団法人日本防錆技術協会において気化性防錆材料分科会の顧問を務めるとともに、JIS原案作成委員会委員長として、「鉄鋼用防せい（錆）フィルム」や「鉄鋼用気化性さび止め剤」などのJIS制定・改正に尽力。防錆フィルム活用の指針となるだけでなく、我が国における防錆剤開発及び製造と利用拡大、ひいてはそれを活用する鉄鋼製品の信頼性向上に寄与。
9	しぶや まさと 渋谷 真人	学校法人東京工芸 大学 工学部 メ ディア画像学科 教授	2007年からISO/TC172（光学及びフ オトニクス）/SC1（光学基礎）国際分科会長 としてISO審議をとりまとめ、2008年から は光学関連のJIS原案作成委員長を務め、国内外の標準化に貢献。更に2010年から、日本工業標準調査会臨時委員として、専門家の立場から各種規格の審議に尽力するとともに、我が国の光学産業の発展に多大な貢献。
10	すずき あつし 鈴木 篤	一般社団法人日本 照明工業会 技術 部 担当部長	一般社団法人日本照明工業会の技術委員会の委員長又は委員並びに事務局として、照明用光源に関するJISの策定に長年尽力し、その標準化に大きく貢献。また、急速な照明のLED化について、JIS化の企画立案及びJIS原案検討において中心的な役割を果たし、その迅速な標準化に貢献。さらに、日本工業標準調査会臨時委員として電気技術分野の工業標準案を審議し、そのJIS化にも貢献。加えて、IEC/TC34（ランプ類及び関連機器）の日本代表専門家及び国内委員会の委員として、その国際標準化に尽力。
11	せんだ てつや 千田 哲也	一般財団法人日本 船舶技術研究協会 審議役	海上技術安全研究所在籍の35年以上にわたり、同研究所の船舶関係ISO規格作成に貢献。（一財）日本船舶技術研究協会が2013年に取り纏めた「船舶に関する国際標準の取組方針」の作成に上部委員会委員として大きく貢献。また、2008年からTC8（船舶及び海洋技術専門委員会）/SC2（海洋環境保護）/WG5（防汚塗装）のコンビーナとして9年間、国際・国内を主導し、船舶・海洋分野における環境保護及び人体への健康被害防止に関する3件の我が国発のISO制定及び2件のJIS制定等に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
12	たかます きよし 高増 潔	国立学校法人東京 大学大学院 工学 系研究科 精密工 学専攻 教授	産業全般に関わる共通基盤的な規格である「ISO/TC213（製品の幾何特性仕様（GPS））」において、JIS化の作業、また我が国が優位に立つ三次元測定器の検査などに関する標準化を先んじて取り組む等先進的な規格化にも貢献。国内的には、機械要素技術専門委員会長、JIS原案作成委員会委員長、ISO/TC213国内委員会委員長として標準化に広く携わるとともに、我が国の産業基盤に多大なる貢献。
13	つるた たつや 鶴田 達哉	麻生田川コンクリート工業株式会社 代表取締役社長	建設資材として不可欠なレディーミクストコンクリートのJIS改正及び工業標準化に関する普及、教育、研究において、長年に亘り活躍。特に、スラッジや回収骨材について各種検討を行いJIS改正に反映するとともに分野別認証指針の改正にも貢献。全国生コンクリート工業組合連合会の技術委員として規格の普及啓蒙に努める一方で、福岡県生コンクリート工業組合及び品質管理監査会議でも、業界内外の講習会や研修会等でコンクリート技術や品質管理の重要性の啓蒙を行うなど、地域におけるコンクリートに関わる標準化の推進に多大な貢献。
14	なかむら あきお 中村 秋夫	一般財団法人関東 電気保安協会 最 高顧問	IECのMSB（市場戦略評議会）の創設時の委員として、戦略的な標準化の企画に尽力。特に、自らが提案し、リーダーを務めたEES（電力貯蔵）プロジェクトでは、IEC外も含め多くの利害関係者の合意を得ながら白書（White Paper）の創案に尽力。当該白書を基に新TCが設立、我が国が幹事国となりEESの標準化をリードする体制の基礎作りに貢献。また、白書を基に新TC等が設立されるという新たな標準化の枠組みへの流れを創出、MSBの役割を確固たるものとすることに貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
15	にしな けん 仁科 健	国立大学法人名古屋工業大学大学院工学研究科おもひ領域 教授	ISO/TC69（統計的方法の適用）/SC4（統計的工程管理）において、1990年から現在まで、エキスパート又はプロジェクトリーダーとして、規格開発に積極的に関わり、当該分野の国際標準化に多大に貢献。また、JIS Z 9020-1（管理図-第1部：一般指針）、JIS Z 8402シリーズ（測定方法及び測定結果の精確さ（真度及び精度））など製造工程の品質管理、試験・分析の場で広く活用されているJISの制定・改正に原案作成委員会委員長又は委員として携わり、我が国の産業競争力強化に大きく寄与。
16	まつだ ひろお 松田 宏雄	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 東北センター 所長	産業技術総合研究所（産総研）の工業標準部長及び国際標準推進部長を10年間にわたり務め、標準化戦略の立案とそれに基づく標準化研究の推進を主導。その結果、産総研提案の発行規格は国内・国際それぞれ100件を超える、国際議長・幹事などの標準化委員会役職者として延べ50名近くの研究者を派遣するなど、我が国の重点分野や基盤分野など広範にわたる分野における標準化活動の推進に大きく貢献。このように我が国を代表する工業標準化を推進する研究機関としての産総研の位置づけを確立した功績は大変顕著。
17	みうら こうじょう 三浦 康晶	株式会社ニコン 映像事業部 後藤 研究室 主幹研究員	ISO/TC42（写真）/WG4で長年に渡りエキスパートを務め、カメラ用シャッタ、三脚とカメラの接合、図記号等の国際標準化に貢献。国内においても、TC42国内協議会座長、日本写真機工業会規格委員を務め国内標準についても貢献。更に、写真機業界の代表として、ねじや機械製図に関する規格改正作業にも参画し、業界を代表して意見を述べるとともに、これらの規格動向を写真機業界に知らしめることで、啓発活動にも貢献。
18	みかみ よしき 三上 喜貴	国立大学法人長岡 技術科学大学 理 事・副学長	2000年から現在までの長期にわたり符号化文字集合の委員会に参加し、その国際標準化に貢献を行うとともに、2010年からはISO/IEC JTC1/SC2（符号化文字集合）国際議長を2期6年務め、委員会運営及びJTC1総会対応の重責を担った。また、書籍の出版等を通じて、少数民族の文字や歴史的の文字を含めた多言語・多文化情報社会実現の基盤を担う符号化文字集合の活動に対する国際社会の理解を広めることに貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
19	やました けい 山下 経	株式会社日立製作所 研究開発グループ 社会イノベーション協創統括本部 チーフアーキテクト室 チーフアーキテクト（戦略スペシャリスト）	18年間の長きに渡りISO/IEC JTC1/SC23（情報交換及び保存用ディジタル記録再生媒体）のWGコンビーナ、国内委員会委員長、国際議長（現職）を歴任し、光ディスク関連の国際標準化に尽力。特にJTC1/SC23の国際議長として他団体との協力関係を構築しながら多くの国際標準開発に貢献すると共に、スコープ拡張などJTC1/SC23の改革にも尽力。また、2012年からはEcma Internationalの要職も兼務し、JTC1/SC23のみならずJTC1/SC23との良好な関係維持に尽力。
20	やまだ しゅう 山田 秀	学校法人慶應義塾 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 教授	ISO/TC69（統計的方法の適用）、ISO/TC176（品質管理及び品質保証）、IEC/TC111（電気・電子機器、システムの環境規格）等に長く携わり、特にISO9001（品質マネジメントシステム—要求事項）の改正には日本代表として、IECの環境設計に関する規格には国際主査として大きく貢献。国内では、ISO19011（マネジメントシステム監査のための指針）対応WG主査、品質マネジメントシステム規格国内委員会副委員長、IEC/TC111国内委員会委員長等を務め、JIS策定等に貢献。

[五十音順、敬称略]

組織

NO	組織名	主な功績
1	日本歯科材料器械研究協議会	ISO／TC106（歯科）の国内審議団体を39年間引受け、この間、本TCの8つのSCのうち、2つのSCの議長国・幹事国及び7つのWGのコンビーナ国として、日本提案による国際規格を8件制定し、現在7件の国際規格を提案中であるなど、医療分野における我が国の国際標準化活動の中で、最も影響力のあるTCの一つとして活動中。また、若手の歯科医師等の国際標準化活動への参加支援を行い、歯科分野の国際標準化人材育成などについても積極的に推進。

平成28年度国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	あおき かずお 青木 和夫	学校法人日本大学 理工学部 まちづくり工学科 教授	日本人間工学会がISO/TC159（人間工学）の国内審議団体となった直後より国内対策委員会の委員となり、SC1（人間工学の一般原則）分科会の主査及び下部組織のWG1（人間工学と人間工学的設計の原則）、WG2（精神作業に関する人間工学の原則）の国際エキスパートとして数多くの国際会議に出席。この間、7年にわたり国内対策委員会委員長として我が国での国際会議の開催を強力に推進するとともに、TC159総会での議論に積極的に貢献。また、高齢者・障害者配慮規格をISOに提案するための国内委員会の委員長を務め、多数の国際規格を提案、これによって我が国の国際標準化事業に大きく貢献。
2	いづみた ひさし 泉田 史	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所 主幹研究員	IEC/TC86（ファイバオプティックス）・SC86A（光ファイバ・ケーブル）国内幹事、及び、JIS原案作成委員会（光ファイバ標準化委員会委員長）としてIEC、JIS双方の策定に貢献。IEC東京大会においては、招致、他標準化機関との連携等、標準化活動を推進。委員として光ファイバ・ケーブル・測定器技術分野における横断的標準化活動に審議、運営の両面に渡って尽力。
3	おかだ かずや 岡田 和也	IDEC株式会社 国際標準化・知財 推進センター 安全・標準化推進グループ セーフティリードアセッサ	ISO/TC299（ロボティクス）のWG2（サービスロボットの安全性）におけるISO13482（サービスロボットの安全要求事項）の制定、WG3（産業用ロボットの安全性）におけるISO10218（産業用ロボットの安全要求事項）シリーズの改正及び制定、IEC/TC44（産業機械の電気装置）/WG7（機械のための安全制御システム）において、安全デバイスマーカの立場から積極的な提案等を行い、ロボット及び産業機械の安全性に関する国際標準化に大きく貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
4	おぐま みつはる 小熊 光晴	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エネルギー・ 環境領域 省エネ ルギー研究部門 エンジン燃焼排気 制御グループ 研 究グループ長	ISO/TC28（石油製品及び潤滑油）/SC 4（分類及び仕様）、及びSC5（軽質炭化水素流 体及び非石油由来液化ガス燃料の測定）のコンビ ーナ、エキスパートとして、アジアでのLPG 需要補填、北米や北欧でのトラック・バス用ディ ーゼル代替など、クリーン燃料として期待されて いるジメチルエーテル（DME）燃料に関し、実 験による豊富な定量データを基に、DME燃料品 質及びその分析方法などのISO規格制定を主導 し、国内DME産業の市場形成に大きく貢献。
5	くどう ひろき 工藤 拓毅	一般財団法人日本 エネルギー経済研 究所 研究理事 グリーンエネルギー 認証センター 副センター長	ISO/TC207（環境マネジメント）/SC 7（温室効果ガスマネジメント）における国際標 準化活動において、日本代表として参加するとともに、我が国産業界の低炭素社会への推進に資する国際規格開発に貢献。WGの主査を務め、ISO14066:2011（温室効果ガス－温室効果ガスの妥当性確認チーム及び検証チームの力量に対する要求事項）等の規格開発を国際的に調整し推進。国内においても、国内対応委員会の委員長を務め、工業会、認証機関、大学、研究機関等様々な意見をまとめ上げ、上記規格のJIS化などの規格開発に貢献。
6	くぼ 久保 洋一郎	久保技術事務所 所長	2000年から16年間にわたりISO/TC4 5（ゴム及びゴム製品）国内審議委員会の総括主 査などとして、ゴム材料の物理・化学試験法分野の国際標準化に貢献。2006年からは、一般財 団法人日本規格協会の規格調整分科会委員として、化学分野全般のJISを延べ300件以上審 議。この知見を活かし、人材育成、規格毎の有効性を評価するテーマ管理手法の開発など、ゴム国 内委員会の継続的な発展に貢献するなど、その功 績は多岐にわたる。

NO	氏名	所属	主な功績
7	さいとう たけし 齋藤 剛	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 計量標準総合 センター 物質計 測標準研究部門 計量標準基盤研究 グループ 研究グ ループ長	ISO/REMCO（標準物質委員会）の日本代 表及び国内審議委員会委員として長年参画。コン ビーナとしてISO Guide 31（標準物質の 認証書及びラベルの内容）改定作業を主導。この 他のREMCO関係ガイド及び国際規格の改定・ 制定においても、REMCOの各WG及びCAS CO（適合性評価委員会）／JWG 43（ISO Guide 34の国際規格化）のエキスパートと して参画し、欧米側委員との調整を行いながらコン センサスを得てその規格等に対する日本意見の反 映に尽力するなど、標準物質に関わる国際標準化 活動の強化に貢献。
8	さとう いくや 佐藤 以久也	富士電機株式会社 技術開発本部 パ ワエレ技術開発セ ンター 主査	2011年からIEC/SC22G（可変速電気 駆動システム）及びIEC/TC2（回転機）に おいて7グループのエキスパートを務め、国内委 員会でも幹事として主導的な役割を果たし、国際 標準化作業に貢献。特にドライブ効率規格IEC 61800-9、IEC 60034-30に関 し、欧州規格をそのままIEC規格とする提案に 対し、国内メーカーを統括して技術データを取りまとめて改善案を作成、積極的に各国を説得し、日 本製品競争力が向上する内容の規格制定に貢献。
9	しおた たけひこ 塩田 武彦	一般財団法人日本 品質保証機構 安 全電磁センター認 証部 部長	IEC/TC108（AV・ICT機器の安全性） 国内委員並びに同国際エキスパートとしてAV・ ICT機器の安全規格の審議、制改訂に携わり、 TC108所管の多くの国際規格及び関連JIS 原案の作成に貢献。特に、IEC 62368-1 の改訂では、当該JIS原案検討委員会主査とし て、日本として問題となる点を抽出のうえ、当該 国際規格ドラフト審議段階にてドラフト改訂を提 案し、日本要求を反映した国際規格改訂とともに、 差異を最小化したJIS開発に尽力。
10	たかはら くにお 高原 邦夫	一般社団法人日本 電子回路工業会 事業部 部長代理	IEC/TC91（電子実装技術）において、プ ロジェクト・リーダーとして、先端技術分野である 部品内蔵基板関連及び高輝度LED用基板に關 する6件の新規国際文書を策定。また、国際コン ビーナ（IEC/TC91/WG10（プリント 配線板とその材料の測定・試験方法））として、日 本提案の規格化推進と共に、圧倒的な市場シェア を誇っていた日本の防磁材料技術に対抗する海外 からの測定方法（2件）提案を無力化し、日本技術 の国際的な優位性維持に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
11	たけだ しんいち 武田 真一	武田コロイドテクノ・コンサルティング株式会社 代表取締役社長	微粒子・ナノ粒子の分散・凝集に関する評価研究で長年にわたり多大な成果を上げるとともに、ISO/TC24（粒子特性評価及びふるい）/SC4（粒子特性評価）における複数のWGで共同コンビーナ、エキスパートとして、国際規格の策定に大きく貢献。特に、超音波を用いた粒子径測定方法や分散安定性の評価手法は、エネルギー関連材料をはじめとする先端工業材料分野の進展に大きく寄与するもので、これらの規格化を主導的立場で進めた功績は多大。
12	ちねん とおる 知念 徹	ソニー株式会社 システム研究開発 本部 オーディオ 技術開発部 統括 課長	ISO/IEC JTC1/SC29（音声、画像、マルチメディア、ハイパームディア情報符号化）/WG11（動画像符号化）において、ISO/IEC14466-3/Amend.4の制定を主導し、22.2マルチチャンネル音響方式などの日本提案を反映。同23003-3の制定においても日本提案による技術の反映に尽力。日本における将来の高臨場感放送の実現という点において極めて重要であり、日本の産業界に貢献。
13	ときた かなめ 時田 要	株式会社本田技術 研究所 四輪R& Dセンター（栃木） 第5技術開発室 主任研究員	ISO/TC22（自動車）/SC31（データ通信）の日本代表・エキスパート及び国内対応部会長として、V2G（電動車両と電力系統間）通信インターフェースに関するISO15118規格開発に提案当初から参画し規格制定に貢献するとともに、当該規格の改正作業においてはプロジェクトリーダとして活動。本規格開発において、国内の関係組織である自動車技術及び自動車研究所と連携し、複数の関係委員会に積極的かつ横断的に参画し、国内の意見調整を行うことで、日本の意見を国際規格に反映。
14	ひらばやし みつひろ 平林 光浩	ソニー株式会社 システム研究開発 本部 コネクティ ビティ技術開発部 統括課長	ISO/IEC JTC1/SC29（音声、画像、マルチメディア、ハイパームディア情報符号化）/WG11（動画像符号化）の扱う幅広いシステム技術領域において、日本の技術領域の第一人者として、主要な欧米企業との技術議論による日本提案の規格への反映を主導。上記規格群に対する日本の投票コメント作成においてもリーダシップをとり、SC29/WG11/SYSTEMS小委員会の幹事として会議運営の活性化に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
15	ふじかわ たつお 藤川 達夫	一般財団法人日本自動車研究所 ロボットプロジェクト推進室 室長	ISO/TC299(ロボティクス)のWG2(サービスロボットの安全性)におけるISO13482(サービスロボットの安全要求事項)の制定及びISO/TR21382(ISO13482のための安全に関する試験方法)の制定に向けた審議に対して、移動機械に関する研究者の立場から積極的な提案等を行い、ロボットの安全性に関する国際標準化に大きく貢献。
16	ほんま ひでとし 本間 英寿	公益財団法人鉄道総合技術研究所 鉄道国際規格センター 担当部長	IEC/TC9(鉄道用電気設備とシステム)の国内委員会の代表として、日本からの新規格提案や規格審議等を推進。また、IEC/TC9及びISO/TC269(鉄道)のエキスパートとして、国際規格の策定に尽力。特に直流電源型蛍光灯電子安定器(IEC62718)や車両用電気コネクタ(IEC62847)の規格審議では、事業規模が小さく十分なリソースを提供できない国内業界の意見を集約して国際規格へ反映。また、JISC鉄道技術専門委員会委員としてJIS規格審議にも貢献。
17	みすみ まさのり 三角 正法	マツダ株式会社 技術研究所 革新研究創成部門 主幹研究員	ISO/TC204(ITS:高度道路交通システム)/WG14(走行制御)の国際幹事及び国内分科会長として、ITS分野の標準化活動を推進。近年自動運転の国際標準化に注目が集まる中、日本の優れた自動走行技術を普及させるべく、TC22(自動車)との調整役を担い、両TC間の覚書締結及びWGレベルでの共同作業により国際標準化促進に貢献。さらにTC204自動運転ワークショップをリーダーとして開催し、今後の標準化の方向性を打ち出し、他TCからも先駆的な活動と注目。
18	みつはし しょうじ 三橋 正示	ソニー株式会社 イメージング・プロダクト&ソリューションセクター プロフェッショナル・プロダクト本部 ディスプレイ事業部 光学機構技術部 製品安全チーフコーディネーター	IEC/TC76(レーザ機器の安全性)の国内委員会エキスパートとして国際会議に出席し、レーザを光源とするプロジェクタの規制緩和につながる規格改正を提案推進。また、IEC62471-5(映像プロジェクタの光生物学的安全性)の規格化プロジェクトリーダーとして海外委員との意見を調整しつつ国内のプロジェクタ事業者団体とも密接な連携を保ち、その結果十分な国内意見の盛り込みを実現。非常に短期間での発行を成し遂げ、国際的な市場環境の緩和に多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
19	もとだ しげき 元田 繁喜	オムロン リレー アンドデバイス株 式会社 技術セン タ開発・設計部 技術統括グループ 技術企画チーム 嘱託	直流給電方式に不可欠な制御機器・制御システム を安全に活用し、高い省エネルギー効果を生むため の直流高電圧リレーに関する国際標準化事業に おいて新規格を提案し、CD化にまで進捗。直流 高電圧リレー国際標準化委員会の主査としてIEC/ TC94（補助継電器）/MT3（補助継電器の保守改定作業分科会）のプロジェクトサブリーダーとして、本リレーの評価試験方法などの規格 開発に尽力。
20	よしおか やすとし 吉岡 康哉	富士電機株式会社 技術開発本部 コア 技術研究所 パ ワーレ技術開発セ ンター 電源技術 開発部 主査	EMCに関わる技術の標準化に関して、パワーエ レクトロニクス機器に関連する多くのTC/SC にエキスパートとして尽力。特に太陽光発電に関 わる技術分野において、プロジェクトリーダとして 新たな測定法・測定器などを開発しつつ、規格 化に向けた活動を推進。
21	よしだ こうじ 吉田 幸司	学校法人日本大学 理工学部 機械工 学科 教授	ISO/TC22（自動車）/SC38（二輪自 動車）/WG1（汚染及びエネルギー）のエキス パートとして、また自動車技術会の二輪部会及び 二輪エンジンエネルギー分科会の委員として、二輪 自動車のエンジン出力や最高速度、台上走行、排 気ガス、燃費などの試験方法に関する国際規格開 発に携わるとともに、関連するJIS規格開発に も従事することにより、二輪自動車に関する国際 規格を日本の技術及びJIS規格に基づきリード する礎を構築。

[五十音順、敬称略]

平成28年度国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	あずま だいち 東 大地	日立金属株式会社 高級金属カンパニー 軟磁性材料統括部 技術部 技師	I E C / T C 6 8 (磁性合金及び磁性鋼) の国際会議に参加し、我が国が世界をリードし産業競争力を維持、変圧器の高効率化を実現し地球温暖化問題の解決に貢献する材料として国際的に期待されている変圧器用鉄基アモルファス帯に関する2件の国際標準化に大きく貢献。
2	かわい くにひろ 河合 邦浩	株式会社 NTT ドコモ 先進技術研究所 研究主任	I E C / T C 4 7 (半導体デバイス) / S C 4 7 E (個別半導体デバイス) / W G 2 の国内委員として、高周波・マイクロ波通信用半導体規格群 I E C 6 0 7 4 7 - 4, - 1 6 の改訂に尽力。また、最新の日本提案 I E C 6 0 7 4 7 - 1 6 - 6 では章を分担しドラフト作成に貢献。
3	きふね ひろやす 木船 弘康	国立大学法人東京海洋大学 海洋工学部 海洋電子機械工学科 准教授 博士 (工学)	2010年4月に I E C / T C 1 8 (船舶並びに移動及び固定式海洋構造物の電気設備) S C A (ケーブル及びケーブルの敷設) の国内審議団体である一般財団法人日本船舶技術研究協会の電気設備分科会の分科会長に就任。年間30件程度の I E C 文書への日本回答を取り纏め、I E C 会議を日本に誘致するなど、積極的に日本意見の反映に貢献。また、J I S F 8 1 0 2 (船用電気設備—リチウム二次電池を用いた蓄電池設備) 等のJ I S 開発、船舶関係の大気汚染防止対策、C O 2 排出削減等にも貢献。
4	こうづま ゆういち 上妻 雄一	公益財団法人鉄道総合技術研究所 鉄道国際規格センター 主査	鉄道の包括的な規格やその一つである鉄道プロジェクト計画規格を日本から提案するにあたり、コンセプト作成など初期段階から中心的に活動し、I S O / T C 2 6 9 (鉄道) / A H G 2 (ジェネリック規格) 及びW G 3 (鉄道プロジェクト計画) のエキスパート兼W G 幹事補佐として、I S O / T R 2 1 2 4 5 - 1 (鉄道プロジェクト計画手順—第1部：ステークホルダーとそのニーズ／関心事) 及びI S O / T R 2 1 2 4 5 - 2 (第2部：条件) の作成を主査とともに推進。現在は、次のT R の提案準備及び骨子の作成も主導的に推進。

NO	氏名	所属	主な功績
5	ひらかわ つとむ 平川 力	国立研究開発法人 産業技術総合研究 所 エネルギー・ 環境領域 環境管 理研究部門 反応 場設計研究グル ープ 主任研究員	ISO/TC206(ファインセラミックス)／ WG9(光触媒)において、自らの研究成果に基 づく性能評価方法の標準化のプロジェクトリーダ ーを務め(ISO19722:溶存酸素消費量に よる光触媒活性の決定試験法)、国際標準化活動に 貢献。国内においては、「ファンセラミックスに 関する国際標準化推進補助事業」委員会、「実環境を 考慮した光触媒抗菌性能試験方法に関する国際標準 化」委員会等の委員を務め、日本からの提案規 格の原案作成に貢献。日本発の技術である光触媒 の国際標準化に取り組む研究者として、今後のさら なる活躍が期待。
6	ふくしま しげる 福島 茂	株式会社JVCケ ンウッド 技術・ 生産戦略統括部 知的財産部 チー フ	映像符号化に関する専門家として、ISO/IE C JTC1/SC29(音声、画像、マルチメデ ィア、ハイパーメディア情報符号化)の国内委員 を務める。ISO/IEC23008-2(HE VC)規格原案作成中は、参照メモリアクセス量 の抑制技術について、日本提案を集約し国際的な 調整を行うなど国際標準化推進に尽力。現在も引 き続き映像符号化の専門家としてSC29国内委員 を務めており、次世代規格の制定に貢献。
7	よしだ ひろし 吉田 寛	オムロン株式会社 インダストリアル オートメーション ビジネスカンパニ ー 商品事業本部 技術開発センタ 第1技術部 主査	IEC/TC65(工業用プロセス計測制御)／ SC65B(計測及び制御機器)／WG7(工業 用プロセス計測制御／計測及び制御機器／プログラ マブルコントロールシステム)の国際エキスパート として、専門性を活かして国際規格化に向け て尽力。その結果、PLCプログラム群IEC6 1131-3、-8の改訂、IEC61131- 10の初版作成に貢献。特にIEC61131- 10はスマートマニュファクチャリング構想に おいて、PLCが関わるエンジニアリング／サブ ライチェーン連携実現のための重要な規格であり、 産業オートメーションの発展に大いに貢献。

[五十音順、敬称略]

平成28年度工業標準化功労者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

個人

NO	氏名	所属	主な功績
1	たかしな よしひさ 高階 義尚	高階救命器具株式会社 代表取締役社長	I SO／TC 8（船舶及び海洋技術）／SC 1（救命及び防火）及びI SO／TC 188（スマートクラフト）／SC 1（個人用ぎ装品）の専門家及び関連製品の事業者として国内を主導、個人用救命具及びイマーションスuits等の国内製品の国際市場における競争力を高め、国際規格の適正化に尽力。2005年からは、（一財）日本船舶技術研究協会の上部委員会委員として、オイルフェンスに関するJ IS規格の作成を主導、海洋環境保護、次世代エネルギーに関するJ IS原案作成に携わり国内海事業界の技術進展に寄与。
2	なかやま えつろう 中山 悅朗	日本アパレル工業技術研究会 常任顧問	約17年間にわたり、生産者、販売者、消費者などの利害関係者の意見調整を行い、衣料品のサイズ、用語などに係る数多くの消費生活部門のJ IS策定や衣料品のモノづくりに大きく貢献。また、J IS S 0023-2（高齢者配慮設計指針—衣料品—ボタンの形状及び使用法）原案作成委員会の委員として参加し、高齢者が着用する衣料品の着用性の向上に貢献。衣料品のサイズ、用語に係るJ ISの普及を図るため各種セミナーに講師として参加し、アパレル業界の後進指導に尽力。
3	のむら けんじ 野村 憲二	一般社団法人纖維評価技術協議会 東京本部 参事	J IS原案作成団体事務局として、数多くの纖維関係J IS策定に大きく貢献。特に、子ども衣料に附属するひもの安全性、発がん性のおそれのある特定芳香族アミンの試験方法、纖維製品の洗濯表示記号・試験方法については、生産者、販売者、試験機関、消費者などの利害関係者が対立する中、意見調整を行いながらJ IS策定まで持ち込んだ氏の貢献は大。また、日本が得意とする高機能纖維のうち、形態安定性纖維製品、防透け性纖維製品などに関するJ IS原案作成に尽力。

NO	氏名	所属	主な功績
4	ふくなが けいいち 福永 敬一	一般財団法人日本規格協会 マーケティングユニット経営企画グループ 経営企画課長	JIS開発において15年以上にわたり取り組み、特に、日本工業標準調査会の審議に付されるJIS原案の構成内容、用字・用語等、規格の一様性・一貫性の面から横断的にJIS原案の質向上に努めた。また、標準化教育の分野においても長年にわたり小学生、中学生、高校生、大学生等に対して、「身のまわりにある標準化」や「社会に役立つ標準」等、標準の役割・重要性について、学校のニーズに応じた標準化教育を行い、我が国の標準化に関する認識向上と人材育成に果たした功績は極めて多大。
5	ふじい とおる 藤井 透	学校法人同志社大学 理工学部 機械システム工学科 教授	日本ベルト工業会のJIS原案作成委員として9年、委員長として8年にわたり、18件のゴムベルト関連のJIS原案を作成。また、2件のISO/TC41（プーリー及びベルト（Vベルトを含む）関連の規格開発に貢献。また、伝動ベルト技術委員会、コンベヤベルト技術委員会及び樹脂ベルト技術委員会の全ての委員会において、アドバイザ又はまとめ役としてベルト産業に大きく貢献。

[五十音順、敬称略]

組織

NO	組織名	主な功績
1	一般財団法人日本電子部品信赖性センター	1980年代の電子部品産業黎明期に、IECQ（IEC傘下の電子部品品質認証制度）の認証機関として活動し、電子部品品質・信赖性向上に大きく貢献。耐火性試験（IEC/TC89）、環境試験（IEC/TC104）、静電気管理（IEC/TC101）分野において、国内審議団体として、国内意見のとりまとめ、国際規格への我が国意見の反映など、国際標準化活動に貢献。日本の特殊な接地環境に合わせ国際規格を改定した静電気管理の団体規格を制定し、この規格を基準とした静電気管理技術者（ESDコーディネータ）を育成し、日本の静電気管理技術力向上にも貢献。